

『芸備日日新聞』 厳島関連記事 (8)

勝部眞人
海阿虎

はじめに

前回(7)から少し間があいてしまったが、ここでは続いて大正一五年二月〜昭和三年八月までの厳島関連記事を紹介していきたい。

当該期の記事では、①大正天皇の不例と昭和時代への転換、②前回に続き国立公園問題と開発、③厳島に関するイメージがトピックとして拾えるかと思われる。

なお、今回の作業は櫻武加奈子が入力した記事を、海阿虎が校正して原稿化し、勝部が校訂した。

1. 昭和新時代と諒闇のなかの厳島

大正一五年五月皇太子裕仁親王が、厳島へ参詣のため来島している。一二年前弟の秩父宮・高松宮と三人で来島した折に植えた「お手植の杉」が成長しているのも見たというが、「今回再び行啓の光榮に浴することになった」と神社・町内あげて歓迎した様子が伝えられている(495)。ともあれ、この参拝の折に皇太子が「聖上陛下の御快癒を御黙禱」したと記事は伝えている。同月一日大正天皇は脳貧血を起こしてまもなく回復したものの、歩行も思わしくなかったという。

ことがあったためかもしれない。

※この年九月には「数十年来かつて見ぬ大水害」に島は襲われるのであるが、青年団や在郷軍人会等の復興支援活動を受けて翌月にスウェーデン皇太子夫妻の来訪を迎えている(500〜506)。

同年一二月に入ると、大正天皇不例が伝えられるなかで、厳島神社や大聖院など七ヶ寺で「御平癒祈願」がさかんに行われている(507〜508)。大正天皇は八月に葉山へ転地したのち、一一月になると高温を発して容態が悪化したこともあって、宮内省が数日おきに病状を発表していたためであろう。

結局一二月二五日に亡くなり、直ちに皇太子が踐祚して昭和の新時代が始まることになる。

昭和二年元旦、除夜の鐘とともに始まる鎮火祭は、例年であれば大きな松明が出て「お祭り騒ぎ」となるが、諒闇ということで厳肅な祭典のみとなった(510)。また旧正月六日に行われる神前相場は、大喪と重なるということで延期となった(512)。このように諒闇は、厳島にもさまざまな影響を与えたが、いっぽうで正月三が日の人出はかえって増加するという現象が見られたという(513)。三日間で計九、六五一名が来島したが、前年に比べて九三一名、約一割の増加であった。これについて、記事では「諒闇中のため年末年始の欠札と各種会合が遠慮された結果」であるとしているが、それにより島内の「各商店は正月早々ホク／＼」となったとされているのも興味深い。

また延期された神前相場は、当初予定より八日遅れて、諒閣第一期明けの二月一三日に「いとも盛大に執行された」とされる(518)。県内はもとより、「大阪堂島の玄人連」あるいは東京や九州、朝鮮半島からも来島したと伝えている。

2. 国立公園問題と厳島

前回触れたように、国立公園をめぐる重点を開発に置くのか自然保護に置くのかで論争が起こり、法案制定は昭和六年までずれ込むが、紙面に掲載される声もその間で揺れているかのようである(544、547)。この頃になると「国際公園」という語も現れてくるが、増加する外国人遊覧客にも対応して、どう人呼び込むか、どういう施設を作るべきかという発想に立つ意見のいっぼうで、あくまで神聖な空間、自然美を守るという発想、あるいはその折衷を図るなどの意見が載せられている。こうしたなかで注目されるのは、両論を問わず「グレート厳島」というように、厳島単独で構想するのではなく、瀬戸内海各地の名所旧跡などと連携して広域にわたる公園化を目ざす考え方が表れていることである。やがて瀬戸内海国立公園というように広域的な公園化が謳われるのであるが、以後も実質的には各地域の連携が十分行われてきたとは言えない。それは現代的課題として、まだ我々の前に横たわっていると思われるのである。

3. 厳島のイメージ

前回「心中の島」という風評に言及したが、今回もまた心中未遂の記事が掲載されている(539)。「美しい絵の厳島」を最期の地に選んだということであるが、一度風評が立つと容易にそのイメージを覆すの

は困難だったようである。

興味深いことに、この頃にも「女神の厳島神社ゆえ男女が一緒に参拝すれば縁が切れる」という噂が流れていた(540)。こうした噂は現在でも時おり人口に膾炙するようであるが、記事では厳島参詣を出汁にして遊女屋へ繰り出した「チヨン鬻時代の不良ものゝ悪宣伝」と記している。

さらに、神社でもそうした悪評を絶つ努力がなされ、神前結婚式を行うようになったとも言われている。神殿において「神官及び媒酌立会の上、新郎新婦が結婚の誓ひをなす極めて厳肅な式」を行って、経費は一五〇二五円であったとされる。さらに、披露宴は宮島ホテルで行うことができるようになったという。こうした新しい試みについて、同紙は「迷信打破」「経済上から見ても至極結構な事」と評している。

以下、記事を掲載していく。これまでと同じくプライバシーに関して伏せ字にすべきと判断される箇所は〇〇、判読困難なものは□とした。

注1 古川隆久『大正天皇』(吉川弘文館、二〇〇七年)二一九頁

2 同右二二二頁

492 大正一五年二月二三日

雨の厳島に米国富豪の一団

赤い鳥居や大杓子などを キヤメラに収めて興がる

米国の富豪四百五十余名を以て組織してゐる大觀光団を乗せて、昨年十二月五日紐育を出帆して欧州・印度支那を経て、あこがれの日本へ訪れたカナダ太平洋汽船会社の大觀光船スコットランド号は、既報の如く廿日別府に寄港し、同市民の大歓迎をうけ、廿一日夜別府拔錨、春雨煙る廿二日正午厳島杉の浦沖に浮城の如き船体を表はして投錨した、之より先松井厳島分署長・高崎県高等課警部補・寺西通訳・原土町長・市村神戸税関宇品出張所長等は警邏船に分乗、スコットランド号を訪問し、歓迎の辞を述べ長途の勞を犒ふたが、一行は午後一時半鐵道連絡船弥山丸に移乗し、杉の浦から省線棧橋に到り上陸、ぬかるみの道路を物とせず翠緑したる厳島の絶景を賞稱へつゝ、道々要害山公園の厳島合戦の際毛利氏が築いた宮尾城跡の伝説を聞き、立ちならぶ宮島産物店の宮島杓子を『ラケット』と呼んで興がり、石の鳥居から三笠ヶ浜に出で海に浮ぶ赤い大鳥居や龍宮のやうな殿堂で、総てが詩である春雨の厳島をカメラに収め、千疊閣、五重の塔、秋の月で名高い鏡の池を遊覽して、本社に参拝ついで宝物館の甲冑、長刀、大太刀、古文書を觀覽し、大願寺の仁王さん、厳島合戦の時陶の將三浦房清が陶晴賢を守護して小早川と一騎打をなし、晴賢を安全に大江浦に落し自分は踏み留まつて戦死した大元公園付近で、この伝説を寺西通訳から聞かされて、流石にハシヤギ家の一行も一寸打ち惚れつゝ、宮島ホテルで杓子、盆、首飾りなど、宮島特産品を買ひ、午後五時半本船に帰り、夜は厳島町の歓迎委員をスコットランド号のキャビンに招待して晚餐を共にし、日米親善の実を挙げ和氣藹々裡に午後八時終了した、一行は廿三日未明憧れの厳島を後に神戸に向けて出帆するが、同日厳島町からは一行に厳島名所写真の絵葉書一組つゝを贈つた

493 大正一五年三月九日

第一艦隊 厳島碇泊 一般拝観させる

第一艦隊長門、伊勢、山城、扶桑以下合計三十余隻は、八日午前十一時頃天下の勝景厳島に入港、投錨―十日まで碇泊することゝなつた、同艦隊は、午前八時より同十時まで午後一時より四時までの二回に亘り、一般希望者に拝観させることになつてゐる、尚日本日は同艦隊乗組員の短艇競漕会が催されるといふことである

494 大正一五年五月一九日

岩国の錦帯橋と厳島の大鳥居

中国行啓の記念スタンプに この二つを表現

(東京発) 皇太子殿下には本月下旬山陽地方行啓に就き奉迎、管区の郵便書状及び郵便葉書(但し郵便葉書の方は予ての希望を以て、郵便局窓口に差し出したるものに限り)に特種の記念消し印を使用し、尚使用当日後三日間料金完納の郵便絵葉書に対し、記念スタンプの求めに應ずる旨、通信省から十八日正式に発表された、因に右スタンプは行啓地方における代表的建造物たる厳島大鳥居、岩国の錦帯橋に、同地方の重要物産たる蘭草を配つた上に舞鶴を描いて、山陽の地に鶴駕を迎へ奉る事を表したものである

495 大正一五年五月二八日夕刊

厳島神社御参拝 聖上の御快癒御默禱

御手植杉の成長を御満足に拝す 東宮再度の厳島行啓

皇太子殿下広島県行啓最後の玉歩を止めさせ給ふ厳島町では、殿下が未だ年少であらせられた大正三年三月廿四日御弟君秩父、高松両宮殿下と、御三方の行啓を仰いでから既に十三年、殿下には摂政宮として政務を営ばせられ益々御健勝に亘らせられるので、町民を挙げて祝福し奉つてゐたところ、今回再び行啓の光榮に浴することになつたので町民の喜悅は一方ならず、神社大鳥居付近に船の仮棧橋を設け、町

内は軒毎に日の丸提灯に国旗を掲揚し、奉迎の二字を印した小旗を吊して町飾りをなし、又神社では菊池宮司の指揮の下に神社社殿を清掃してお成をお待ち申してゐたが、廿七日朝来雲低く垂れてゐたが全島の翠滴はいよ／＼色映えて、海岸に群れ遊ぶ神鹿、大聖院境内の鳩など、何れも今日の佳き日を寿くが如く嬉々として戯れ、瑞雲鑿鑿としてゐたが、殿下呉御発艦の報が伝へられた午後一時半には、御上陸棧橋を中心に付近には小学校児童、在郷軍人会員、官公吏、名誉職、消防組、赤十字社員、軍人遺族、宮中席次第六階以上者夫人、愛国婦人会員、厳島町婦人会員、厳島処女会員、青年団員、社前神馬鹿舎付近には高齢者、補習学校生徒が堵列し、一般町民は仮橋付近の海岸に船列を作つてゐたが、午後二時杉の浦付近から打揚げられた煙火は、お召艦長門が杉の浦沖に碇泊を報じ、次で青暈を敷いたやうな海波を蹴立つて、殿下お召しの艦載水雷艇は供奉艇を随へて、徐々として天下に名勝を誇る厳島仮棧橋に着いた、殿下には長途の御旅行にもかゝはせられず御機嫌ます／＼麗しく、濱田知事の先導にて上陸遊ばされ、奉迎者に一々挙手の御会釈を給ひつゝ大石鳥居前に出でさせられ、こゝにて奉迎の野坂祢宜の先導にて神社東入口より珠廊を御勇ましく歩を運ばさせ給ひ、東宮侍従の奉仕で御手水をとらせられ、社前に衣冠束帯で奉迎の菊池宮司の先導にて皇族拝殿に進み給ひ、菊地宮司の捧ぐる玉串を奉献、聖上の御快癒を御黙禱あらせらる、この間供奉員最敬礼をなし、殿下には野坂祢宜の先導にて平舞台に出でさせられ、霞に煙る瀬戸の島山を御遠望あらせられた日の皇子の行啓を仰いだ瀬戸内海は光栄に輝き、付近航行の諸船は満船飾を施し、清海に時ならぬ紅を呈してゐた、野坂祢宜は塔の岡を中心にする厳島古戦史を御説明申し上げたが、御興味深く御聴取遊ばされた

国宝台覧 御感興御深し

かくて野坂祢宜の先導にて貴賓室に陳列してある平家納経序品、同寶塔品（原本副本各一卷）先帝御下賜御劍、有成西連太刀、螺鈿飾小刀（大小二口）、皇后陛下御献備紅白羽二重（各一匹）友成短刀、短刀

箱、安徳天皇御玩具（二十種）、小桜緘甲冑、昔曾口山姥之図を台覧あり、菊池宮司より、明治大帝が御下賜の太刀は、明治大帝が厳島行幸の御砌、同社所蔵の国宝有成西連の太刀を天覧に供し奉りたるに、いとゞお氣に召し宮中にお持ち帰りになり神社にお返しになつた時、帝室技芸委員をして同社に御下賜になつたもの、又皇后陛下御献備紅白羽二重は、大正十一年三月廿五日聖上陛下御病氣御平癒御祈願のため同社に御参拝あらせられたる時、紅葉山養蚕所にて御親ら織らせ給ひし物であると御説明申し上げたるに、御熱心御聴取遊ばされ、安徳天皇御使用の玩具は、成子内親王の御事をば思ひ出されしか御手にとらせられて台覧あり、平家納経には美術方面の趣味にも富ませ給ふ事とて、これ又御熱心に御聴取遊ばされた

鹿寄せに 興じ給ふ

次で神社西入口より大願寺に入らせられ、鹿寄せに打ち興じ給ひ、御手づから餌を与へさせ給ふなど、御仁慈は畜類にまで及び、供奉の人々を感激せしめられ、紅葉谷に出させ給ふ、御道すがら大正三年厳島行啓の際御弟君秩父、高松両宮殿下と共にお手植遊ばされた杉を台覧あり、殿下お手植の杉が最も好く成長してゐるのを御覧遊ばされ御微笑を漏らし給ひ、新緑深き紅葉谷の幽淵境の一部を台覧あり、御予定よりおかれて午後三時十五分、仮棧橋より艦載水雷艇に乗御、お召艦長門に還啓遊ばされたが、十三年目に殿下の御英姿に接した厳島町民は、二度の行啓に何れもいたく感激したみた

496 大正一五年七月六日

来る廿六日は 厳島の管絃祭

交通機関の完成と相俟つて 大股賑をきはむる

海内稀有の海の大祭とし有名な厳島神社管絃祭は、いよ／＼来る二十六日三隻の和船を並べ連ねて屋型をつくり、午後五時本殿から神輿を奉じ神職伶人これに陪乗して、大鳥居沖から奏楽の音を合図に漕ぎ始めて、同八時対岸の摂社地御前神社に向ひ、厳かな神事を行ひ同九時

長浜に還り、再び神事があつて同九時半大元の海上に管絃船を進め、此を得て私服隊をつくり、海上は例によつて宇品から広島水上警察署員が警備船数隻に分乗し海上警戒の任にあたり、海陸相俟つて嚴重な警備をなし、諸種の犯罪を未然に防ぐ方針であると

497・大正一五年七月一七日

厳島の神鹿が地御前を荒す

目下繁殖季として注意中の処 この事実が判かる

厳島と言へば潮に浮ぶ龍宮の様な殿堂に、赤い大鳥居名物の鹿寄せを誰しも想像するだらう、社頭の明燈、大元の桜、瀧の宮の水甕、鏡ヶ池の秋月、御笠ヶ浜の暮雪、御弥の神鴉、有の浦の客船と共に厳島八景の一つに数へられてゐる谷ヶ原の麋鹿は今や昔の面影を見ず、年々鹿の繁殖どころか却つて頭数の減つてゆく観があるので、神社当局は勿論、所轄厳島警察署でもこれを不審に思ひ、かねて神鹿に対して危害を加へるものがあつて鹿の繁殖を見ないのではないかと神鹿の保護にとめてゐるが、殊に目下繁殖の季節に向つてゐるので一層此点に注意する事になつた、数日前の事である二頭の大鹿が厳島から海を渡り、対岸大野村から地御前に出で夜間付近の田畑を食ひ荒してゐるのを発見、目下青年団・軍人会の手で捕獲にとめてゐるが、従来も海を越て対岸に逃た鹿は幾等もあるらしい

498・大正一五年七月二七日

総燈明波にゆらぎ 神々しい管絃の音

海に回廊にギンシリ盛つたやう 未曾有の厳島の人出

厳島神社管絃祭午後の人出は午前に増して、各棧橋や波止場から上陸する人は雪崩をうつつて詰かけ、厳島神社を中心に町内一帯は全く身動きもならぬ雑踏を呈し、泣きわめく幼児、迷子、スリの届出、泥酔、検束と、日頃平和な厳島警察署も今日ばかりは大繁昌で、留置場も大入満員の盛況である

石鳥居から三笠ヶ浜、大元公園一帯に軒を並ぶる数百件の露店、活動写真、曲馬団、動物園も田舎の人の人気を呼ぶ、宮島杓子、豊公の力もち、宮島物産も羽が飛ぶ様な売行きて商人は何れもホク／＼の恵比寿顔である、海に浮ぶ赤い殿堂に燈された神燈百八間の回廊へ、一間毎につるされた雅趣に富む鉄燈籠、三笠ヶ浜から西松原一帯の燈籠へ一斉に総燈明が献ぜられ、潮満ちて数千の燈影が波に映ずる午後八時頃、三隻の屋形船に神輿を奉じ神職伶人これに陪乗した管絃船は、神々しい管絃の音を合図に、大鳥居沖から対岸に鎮座まします撰社地御前神社に至り、神事を行ひ長浜大元に引返し、各所で管弦楽を奏でながら午後十時の満潮時に廊嘴から本社に還御されたが、その間参詣者は船中に或ひは海岸に、或ひは回廊に立つて身動きもせず拝観し、当日の人出は約六万人に達し、終日雑踏を呈した

499・大正一五年八月一日

厳島の国宝を台覧に供す

これが打合の爲め 山縣宮内省式部官来島
山縣宮内省式部官は、十日午前八時新庄広島県内務部長と共に厳島に來り、菊池宮司の案内で神社へ参拝し、瑞典皇太子に台覧すべきものについては神社に委嘱したので、神社では平家納経仏画、甲冑類を台覧に供することになつた、山縣式部官は十日夜は宮島ホテルに投宿、十一日午後二時十九分宮島駅発、帰京すると

500・大正一五年八月一二日

夜は総燈明をあげて 宮島名物の燈籠流し

瑞典皇太子殿下を御迎へ奉る 厳島神社の準備整ふ

九月二日横浜入港の郵船サイベリヤ丸で、考古学御研究の爲御來朝の瑞典皇太子並に妃殿下には、東都、奈良、京都、大阪、神戸各地を御巡遊の後、舞子より多分帝國軍艦木曾に御乗艦、十月一日海路厳島にらせられ、大元宮島ホテルに御投宿、同夜はホテル露台に於て、さ

きにわが東宮殿下厳島行啓の際御覧に入れた宮島名物燈籠流しを御覧になり、引つゞき濱田広島県知事の岩惣に於ける歓迎宴にのぞませられ、第二日は厳島神社に御参拝菊池宮司の御説明で考古学資料各種国宝を御研究になつて、同日別府に向はせられる予定で、厳島神社並に岩惣・宮島ホテルでは、既にこれが準備に着手して御来遊の日を待つてゐる、なほ一日夜は神社の総燈明も献燈されると言へば、数千の燈籠流しの灯とゞもに厳島の海は大鳥居を中心に火の海と化し、頗る美観を呈して両殿下の御旅情を慰めるに足るだらう

おん宿舎は ホテルの廿六号室 裝飾其他改造に着手

瑞典皇太子殿下御来遊の際に於ける御宿舎は、十日山縣宮内省式武官及び新庄広島県内務部長等が下検分の結果、大元公園内宮島ホテルに決定したが、同ホテルはかつて秩父宮殿下及び北白川宮大妃殿下の御宿舎にあてられた事もあり、今度御来遊になる瑞典皇太子殿下・同妃殿下の御居間は三階の海面に向ふ二十六号室に決定し、ホテルでは室内の裝飾やベットの改造を行ふ事となつた

台覧に供する 平家の納経

御研究に資するに充分だらうと 菊池宮司のはなし

瑞典皇太子殿下厳島御来遊につき、菊池宮司は語る

十月一日厳島に御成の瑞典皇太子殿下には、考古学に非常の興味を持たれ、且つ御造詣が深いとの事であるが、当神社の国宝としては源平後のものだけで余り古いものはないが、平家一門清盛公以下三十二人の公達が幾年の歳月と努力をもつて金銀の箔や五色の絵具をもつて御経の文句を色美しく書分けた三十三巻の経巻は国宝中の白眉で、殿下の御研究に資するに充分なるものがあるだらうと思ふ、なほ新羅三郎義光、大内義隆氏の奉納した甲冑、仏書等主要な国宝数点を台覧に供する考へである

501. 大正一五年九月四日

瑞典皇太子に厳島の八景踊りを

光栄に浴する多数の芸妓たちが 熱心な稽古をはじめ

瑞典皇太子並に同妃両殿下を厳島にお迎へする日は追々と近づき、同町ではこれが歓迎諸準備に着手忙殺されてゐるが、とりわけ厳島芸妓券番では岩惣に於ける殿下御一行の歓迎宴席上にて催す事に略内定したと噂されてゐる、厳島町独特の

我は筑紫のものなるが、今年始めて宮島へ、山のけしきを見渡らせば、きゞしにまさる厳島、されば参詣もすべし、前の潮でこりをとり、御前に参るみとなれば、心しづかにふし詣み、又立寄りてながむれば、まことに大きな絵馬の数、眼をおどろかさばかりなり、舞樂のまえの火焼前に、みちくる潮のありさまは、異国にあらで我が国に、かゝる靈地はよもあらじ、神の威を増す玉垣の、湯立神樂や、神子の鈴、すきねかつゞみに大はんにや、その御経のありがたや、百八の燈籠が、汐にうつるは沢の螢か秋の夜の、晃の光も是ならで、その名もたかき経ふどふの、五重の塔の九輪まで、名所古跡は多けれど、心ことばに尽されず……

と、厳島八景の唄に合せた宮島踊の稽古を熱心にやつてゐるが、みややかなその踊は夢の様美しく、両殿下の御旅情を慰めるに足るだらう、因に出演の光栄に浴する宮島芸妓は、歌、玉助、太郎、三味、太郎小福、君羽、太鼓、朝千代、鹿奈子、小鼓、雛奴、踊君菜、朝奴、君之助、菊羽、艶子、君蝶、八千代、君太郎である

502. 大正一五年九月一二日

厳島遊廓一帯は土砂が山積

数十年にない大水害 水を怨む哀れな一家

厳島町では、数十年來かつて見ぬ大水害を蒙り、殆ど全町百八戸の浸水を見たが、最も甚だしかつたのは音町通りの物産店で、御手川の増水により全町床上まで浸水、多数の物産全部を流失、なほ大西町〇〇長吉方は山崩れのため家屋をつぶし、桜町中間谷から瀧の様な恐ろしい勢ひで流れる泥水と土砂のため、中之町遊廓一帯は軒まで土砂山

積、桜町あんま業〇〇白一はめくらで何一つ家財を出すいとまなく全部を流失し、最も惨めな状態であつた

厳島町では臨時町会 瑞典皇太子殿下を迎へるので

瑞典皇太子一行を近くお迎へする厳島町は、十一日夜来の篠つく豪雨に、神社境内並に紅葉谷大元公園一帯の風致と行啓道路を破損したので、十一日午後とりあへず臨時町会を開き、天候の恢復を待つて、復旧工事を急ぐことになつた

503・大正一五年九月一三日夕刊

厳島の水害復興に 青年団・在郷軍人総出動

善男善女は仏のほり出しに努む 完成は数週間後

厳島町は、十一日午前一時頃からの土砂降りの猛雨で、大聖院、紅葉園等、天下にほこる絶景をメチャ／＼となし、数十年來かつて同島に見ぬ大惨状を呈し、上田県土木技師は十二日これが善後策のため来島、罹災の跡をよく視察の上県に引揚たが、スエーデン皇太子並に同妃御來遊の日も近づいてゐるので、神社当局とも打合せ、公園一帯の復旧工事に急いで着手する事になつた、一方厳島町では十二日日曜日青年団、在郷軍人数百名がシヤツに赤鉢巻といふ軽装のいでたちで総出動をなし、団長指揮のもとに先づ海岸通りから神社参詣道の大改修を行ひ、十三日は在郷軍人、一般町民、婦人会それに男女小学校児童をも加はつて、殆ど全町民総動員で、男子は復興工事に、女子は衛生班と焚出しの運搬に努力し、陶と毛利の厳島合戦後かつて見ぬ厳島全島の騒ぎを演じ、いつも平和な島内も水害の後始末に戦場の様な雑踏を極めてゐる、なほケーブルカー敷設道から押流された土砂のため、殆ど半ば埋没された弥山道の大聖院は、十二日から善男善女が集まつて、仏の掘出しと土砂を取除けてゐるが、なにしても丈余の土砂が押流されてゐるので、これを全部取除けるのは数週間の時日を要するとのことである

504・大正一五年九月一六日夕刊

野球のマスケット 厳島の杓子

飯とるはめしとると縁起よく 遙々台湾から注文

厳島参拝者の土産として、また室内美術用品として内地は勿論、遠く海外にまで輸出されてゐる宮島細工の創案恩人である僧誓信が、同じく創意したといふ家庭に是非なくてはならぬ宮島杓子は、島内六十二戸の製造者が工賃七万六千四百余円を支払ひ、一ヶ年に約二十五万本、この産額二十六万九千四百六十円といふ多額の杓子を造つてゐるが、この多くの杓子は家庭の飯杓子として使用されるのみでなく、日清戦後以來出陣の将士が戦勝の祈願をこめ杓子に国家安全とか戦勝を祈るとか、或ひは家庭の幸福を祈るなどの字句を並べて神社に奉納するやうになり、今ではこれが参拝者一般の風習となつて日々多数の杓子が奉納され、なほ厳島局扱ひのみに限られてゐる葉書代用として参拝者に喜ばれ、又杓子は「飯取る」めしとると言つて敵軍を降服さすといふ縁起に、かつぎや連が野球の応援道具につかつて厳島明神必勝杓子と名づけ、甲子園等に広島辺りのチームが遠征すると、必ず「宮島様の神主が……」の例の応援歌と、大きな必勝杓子の姿を見せられる、このえんぎは広島のみでなく、最近各地の野球大会でも必勝杓子を振回すヶ所があつて、ます／＼宮島杓子の声価を高めて来て、昨十五日も台湾台中市老松町から厳島警察署宛に送金、野球必勝杓子の送付方を依頼して来たさうである

505・大正一五年九月一七日夕刊

瑞典皇儲殿下 厳島神社の宝物御台覧

時間の都合では舞楽面衣装も 厳島芸妓は衣装新調

考古学御研究のため十月五日厳島を訪れになるスエーデン皇太子殿下には、国宝中の白眉「平家一門書写経巻」の外に、新羅三郎義光、大内義隆、平重盛等の奉納せる甲冑、赤梅檀の仏像二十一体を刻んだ篋仏等を御覧になる模様である、なほ時間の余裕があれば、厳島以外の

神社では決して観られぬ古雅優麗な舞樂と、これに使用する舞樂面衣装等も御覧になるやも知れぬ模様で、巖惣別館に於て芸妓宮島踊を御覧に入れ、長途の御旅情を御慰め申すことになり、目下踊の稽古に熱中してゐるが、今度使用する衣装は特に京都へ注文してゐると

506・大正十五年一〇月七日夕刊

秋雨静かに降る中を国賓殿下巖島御賞覽

憧れの勝地は秋色愈よ整ふ 正午別府に向はせらる

神秘な暗い闇い森の中に巍然聳立する宮島ホテルは、国賓スエーデン皇太子・同妃殿下御一行をお迎へ申す、その大きな歓びに電飾は煌々と輝いて、正門の上の日章旗とスエーデン国旗とは堅き握手をなしてゐるやうにしつくり交又され、日瑞親善をより強く物語つて何となく嬉しい

岩惣における末松知事の招待宴に臨まれた後、西松原で巖島名物の燈籠流しを心ゆくばかりに御眺めになつた同殿下は、御疲労の色は更に見せられず、午後九時三十分同ホテルにお入りになり、食堂で大阪毎日新聞が御撮影した高野山御参拝の同殿下の活動写真、並にスエーデンに於ける万国女子オリンピック大会の光景を御覧になつたのち、同十一時三十分海に面した御寢室におはいりになり、詩の宮島のまどらかな御夢路におつゝまれになつた

風はなし海は静か、すべてのものがその眠りから醒めやうとする午後六時頃から、宮島の紅葉を色づかせる秋雨は静かに音もなく降り出した、妻を恋ふる雄鹿の声に御夢路からおすつぽりお脱け出しになり、かくて午前七時四十分頃ムクリと御起床遊ばされた、御洗面・御食事のうえ、殿下は鼠色の背広服に同色のソフト帽、妃殿下は薄茶色の御洋装で同色のボンネット、けふもきのふと御同様羽二重地に古代紗羅模様の日本製のシヨールを、さも御好み気にお首にかけられ、両殿下をはじめ一行は御元氣いやますく旺んでゐる、九時三十分宮島

ホテルに名残りを措かれながら、ゴツイホテルのばん傘をさされレインコートを召された、上大元公園から公園道をお辿りになり景勝の巖島を一瞬のうちにぬめる平松山より、雨に煙る絵の宮島をレンズにお収めになり、絶ずあたりの風光にお眼をとめ、また足をおとどめになり、雨の宮島は又格別の風情があると仰になり、はや色づき初めんとする紅葉谷公園に出でられ、紅い紅葉樹の上からせん／＼音を立てて流るる幽すい境に御眼を奪はされながら、岩惣前からみやげ物の居並ぶ明神の街に出でられた

507・大正一五年一二月二日夕刊

巖島に上陸し、はるびん丸の乗客二十余名が祈願

巖島町では、聖上の御悩みすぐれさせられざるの公報発表されて以来、巖島神社は逸早く御平癒祈願祭を執行し、菊地宮司はさきに御平癒祈念のお守札を奉持して葉山御用邸に伺候天機奉伺を行ひ、十六日再び巖島・速谷両神社に於て祈願祭を執行、青年団・処女会・婦人会・在郷軍人・小学児童・警察署員・町役場の各種団体は勿論、一般町民・芸妓娼妓に至るまで、熱誠こめた祈願を行ひつゝあることは既報の通りであるが、数日來の御容態急変に一層町内は憂色漂ひ、十九日は木下警察部長の御平癒祈念参拝を始め、同日宇品に寄港した大連航路ハルビン丸乗客二十余名の涙ぐましい祈念参拝もあり、大聖院、大願寺、在光寺、宝寿院、光明院、弥山本堂、金光教巖島支部の各社寺に於いても、同日一齊に御平癒祈願をあげて、参拝者多数あつたが、巖島遊廊料亭の花柳街は三味の音一つ聴こえず、弥山風の冷たい風雪に一層湿りがちであつた

508・大正一五年一二月二日夕刊

巖島全島は禱りのちまた

大聖院以下七ヶ寺も一齊に御平癒祈願
聖上御不例以来、巖島神社はひきつゞき御平癒の祈願祭を執行、大聖

院以下七ヶ寺も十九日から一斉に御平癒祈念をやつて、周囲七里の厳島全島は、今や祈りの巷と化しつゝあるが、厳島警察署では二十一日午後六時から松井署長以下全署員、所轄消防約七十名が厳島神社に参拝、玉串を献上して、同七時から一同霜を踏んで峻しい二十四丁の弥山を踏破し、頂の霊場弥山神社に至り、約一時間に亘つた聖上御平癒の黙禱を行ひ、帰途は弥山二十四丁の要所に安置されてゐる大師堂その他の社寺に、涙ぐましいまで赤誠こめたお祈りをあげて帰署、松井署長の訓示があつた

509・大正一五年一月二六日

先帝が厳島に日本刀を御奉納

先帝が厳島へ行啓遊ばされたのは東宮にまませし御時代であるが、厳島神社へ目下保存されてゐる宝物の中で、先帝の御奉納になつてゐるのは、大正二年十二月十五日かつて明治大帝が御参拝の節御愛玩になり、神社から御持帰りになつてゐた甲冑太刀二振を、明治大帝崩御の後神社が宮内省を通じて御返納方を奏上した際、右甲冑太刀に先帝が明治四十五年帝室技芸員の菅原兼則翁にうたしめられた刀身二尺三寸八歩の日本刀をそへて御奉納になつたのが、厳島に於ける唯一の御記念物で将来は国宝となるべきものであると

510・大正一五年一月二七日

厳島神社 御神衣献上祭御裁式 鎮火祭は祭典のみ執行

官幣中社厳島神社では、廿六日午前十時から恒例による御神衣献上祭の御神衣御裁式を、斎戒沐浴した菊地宮司、野坂祐宜以下神官全部と内侍松本ハツ、宮西みつ、平野よし、永田ダイの四老女参列の上いと厳肅裡に執行、尚卅一日の除夜の鐘とともに執行する鎮火祭は時節柄謹んで、例年の如き大きな「タイ松」は出さず、お祭り騒ぎをやめて厳肅な祭典のみを執行すると

511・昭和二年一月一日

世間に余り知られぬ厳島の神衣献上祭

元旦の未明からいと壯嚴に 献上祭と其の伝説

官幣中社厳島神社の神衣献上祭は、恒例により一日未明からいと壯嚴裡に執行される、祭典は旧正月六日の年越祭、旧六月十七日夜の管絃祭、旧七月望月の日より四日目の玉取祭とともに、由緒ありかつ御鳥喰式以上に神秘的にして厳肅なる祭典であるが、年の瀬の十二月末から元旦にかけて執行されるため、あまり遠方からの参詣者がなく、随つて此の祭典の起源や歴史などを知つてゐる人は少い様である、起源は斎宮の御鎮座当時からであつて、天照神大神が高天原で素盞鳴尊と御誓ひの際お生れになつた市杵島姫命、すなはち厳島の主神が島回り第七の拝所である御床ノ浦に始めて御降臨になつた時、土民が御装を献上して以来今日の神衣献上祭に至つたものだとも伝へられてゐるが、献上の神衣は、十二月二十六日午前十時神前で御衣の御裁式を執行し、祐宜は神衣の寸法を告げ、宮司は御紋章水亀甲織の羽二重を裁ち、六十以上の老女四名がこれを整頓別室に於て縫ひ、二十九日午前十時綿入れの式を挙げ、これをくけて三十一日午後一時から御衣畳替の式と御祓をやつて、宮司・祐宜以下神職は二十九以来三日間別火参籠、厳重なる潔斎のもとに社殿へ詰めきり、午後三時大祓式、同四時除夜祭、同六時から火難除けの鎮火祭を執行して、年内の祭典を終了、謹慎潔斎の裡に夜を徹し、元旦の十二時を告げる千疊閣の鐘を合図に、宮司以下神官は先づ客神社に参拝、宮司は神燈を滅し奥の神殿へ参入、御開扉申上げて新調の御衣を献上して下り神燈をともし、此間約一時間、参拝者は殿内にあふれてゐるが声一つなく伏したまゝである、終つて神官一同本社に参進、善男善女の参拝者は社殿から広い回廊に充滿し、燈火は再び滅せられて、宮司は奥殿深く参入、丑の刻午前一時三十分頃御開扉の音は闇を破つて聴こえ、同二時三十分御衣の献上を全く終へ、神燈は再び神々しい光を放つて波に映じ、参詣者は御神酒を敷いて若水の初潮を汲み、こゝに新年を迎へるのであるが、

午前十時から宮司以下神官三度参殿、元旦祭を執行、厳島古有の古雅優麗なる舞楽を催すのである

512・昭和二年一月五日

厳島神社の神前相場 御大喪当日とて無期延期となる

全国各地の相場師連を筆頭に一般商人、はては粹な姐さんたちまでが、押すなくの繁昌を呈す厳島神社の年越祭属に神前初相場は例年通り旧正月六日の夜、来る二月七日執行の筈でもあつたが、時あたかも大行天皇御大喪当日にあたるので、やむなく延期して御遠慮申上げることになつたが、期日は県当局と打合せの上近く発表の筈

513・昭和二年一月五日

はつ詣りの 宮島さん 例年よりズツト賑はふ

正月三日間に於ける厳島神社初詣の善男善女は、第一日汽車によるもの一千六百七十名、電車によるもの一千八百四十二名、汽船によるもの十六名、計三千五百二十二名、うち宿泊者八十六名、第二日汽車によるもの二千三十一名、電車によるもの一千三百九十五名、汽船によるもの二十九名、計三千四百五十五名、うち宿泊者二十七名、第三日汽車によるもの一千三百三十一名、電車によるもの一千二百九十一名、汽船によるもの二千六百七十四名、うち宿泊者九十八名、三日間を通じて九千六百五十一名、宿泊者二百八十一名で、これを大正十五年正月三日間の来島人員に比較すると、九百三十一名、宿泊者に於て十八名といふ何れも増加を見てゐる、これは諒閣中のため年末年始の欠礼と各種会合が遠慮された結果、参詣者増加によるものと観測され、昨四日も早朝から多数の参詣者が押しかけ、厳島は一日以来ひきつゞき雑踏を極め各商店は正月早々ホク／＼である

514・昭和二年二月一日

世界周遊の大観光船 厳島を探勝

憧れの景趣にひたりながら 八景踊を観て抜錨

アメリカン、エツキスプレス社主催にかゝる世界周遊の大観光船ベルゲンランド号(二万八千吨)は、横浜、神戸を経て予定の如く三十一日午後六時厳島に入港し、聖崎沖へ浮城の如きその巨軀を横たへた、これよりさき厳島神社では、松井署長、原土町長、通訳等がランチで本船を聖崎沖に迎へ船長トマス、ホーエール氏、その他知名の士んが嬉々として、憧憬の厳島上陸の日をまつてゐる、一行は同夜海上に一泊し、今一日午前九時半から通訳の案内で、厳島の景趣を探り、宮島芸妓の厳島八景踊りを観て打ち興する筈である

515・昭和二年二月二日夕刊

早春の厳島を心ゆくばかり探勝

朱の大鳥居や回廊を何れもカメラに収め

到る処で得意の茶目振 世界週遊船 ベルグラント号

卅一日午後五時、厳島聖崎沖に浮城の如き巨軀を横たへたお馴染の英船、赤星社のジャス、オーゲストラの音につれて、一行中の活動女優ロビンス嬢がリーダーとなり、夜の更けるも忘れ足並面白く踊狂ふて、午後十二時頃漸く就寝、明ければ一日いよく一行が憧憬の上陸の日は来た、午前九時半鉄道省差回しの弥山丸に移乗、厳島鉄道栈橋から上陸、途中軒を並ぶる物産店の宮島細工を買つて大はしやぎにはしやいで、石鳥居を潜り三笠ヶ浜をへて神社東回廊口から百八間の長い回廊を通りぬけ、潮に浮ぶ朱の大鳥居や神社の建築諸種の国宝について一々興味深く質問し、西回廊口から大元公園に出で、群れ遊ぶ神鹿や神鳩に餌を与へて茶目振を發揮し、宮島ホテルに入り小憩後、ホテル日本室橋館で一行の勞をねぎらう、宮島芸妓の米国旗をかざした厳島八景踊に打ち興じ、ジャパンドンダンスとして自らカメラにおさめ、ついで紅葉谷・千畳閣一帶の梅綻ぶ早春の景趣を心ゆくばかりながめて、正午再び栈橋から弥山丸に乗り、本船に帰り昼食をとり、午後二

時あこがれの厳島へ名残を惜みつゝ上海に向つた、なほ一行は同日宮島の景趣をバツクに一行の行動をフィルムにおさめ米国への土産として持帰つた

516・昭和二年二月五日

厳島の神前相場に 電車賃の割引

厳島神社の三大祭の一つとして、全国各地から多数の参詣者や相場師連がつめかける旧正月六日夜の年越祭神前相場は、大正天皇御大喪儀日取のため延期されてゐるが、いよゝ来る十三日午後六時から神殿に於いて祭典を挙げ、ひきつゞき神前予想初相場をひらくことになつたが、厳島の予想相場は必ず的中するといふのと、同夜は古式による大福引と妊婦が安産のお守りにするといふ紅白の櫛を授与し、殊に諒闇第一期明けのことでもあるから、広島は勿論東京、大阪、下関や遠く海外からも多数の参詣者が押寄せ、昨年の年越祭当夜の来島者六千八百二十五名よりはるかに多いだらうと厳島では豫想してゐる、なほ広島電鉄では当日特に己斐厳島間の郊外線電車を増発し、運賃も往復八十銭に割引して、余興に福引をも催すと言へば、年越祭当日の厳島は定めし賑ふであらう

517・昭和二年二月六日

古式による厳島神社の節分 お化も出た

毎年二月の行事として賑ふ節分は、その文字通り冬と春との節分をわけるといふ意味で、この夜を境にして今までの陰鬱な日影にとざされてゐたものを一掃して、春の暖風を迎へるといふのであるが、この夜豆を捲いて「鬼は外福は内」と叫ぶのは、冬の終りにその災厄を払ひ新しい春の神を求める心からであるとも伝へられてゐる、今までは此の厄払ひも一種の遊戯的気分になつて来た様だが、今年も相変らず二月三日は節分とあつて、官幣中社厳島神社を始め各神社仏閣では、古式による鬼払ひの豆撒き式が執行され、午後六時の灯ともし頃から参

詣者は各神社の境内に溢れ、年数だけ紙へ包んだ煎豆とお賽銭は社殿に雨と降り、また呼びもののお化けもポツ／＼参詣して、一人歩きが出来ぬ可愛い子供のお化けの上に緋鹿子の鬘が乗つたり、色街の女たちが奥様風の丸鬘に化けたりして、異風異形のお化け絵巻が大分出現した様だが、今年には諒闇中と不景気の影響か、例年に比べると厳島廿日市斐の各券番でも丸鬘お化けが非常に少なかつた様である

518・昭和二年二月一日

寒さにもめげず雪崩のやうな人出 諒闇の為め延期されてゐた

厳島神社の神前相場

旧正月六日夜毎年盛大に執行する恒例の厳島神社年越祭神前豫想初相場も、本年は諒闇中とあつてやむなく延期されてゐたが、いよゝ諒闇第一期明けの十三日いとも盛大に執行された、この日は丁度初寅の毘沙門天様の縁日にあたつてゐるのと、そこへ日曜日ときてゐるので、朝来の寒さにもめげず大そうな人出で、近況郷近はいふに及ばず、例により遠くは東京、九州、海外では朝鮮あたりからの来島者が多く、広島株取引所関係者は勿論、大阪堂島の玄人連までが雪崩のごとくドツト押寄せ、鉄道、電車の連絡船や内海航路の各汽船が入港することにゾロ／＼と各棧橋に吐き出され、「どうせ午後にもならぬと…」の予想は全くくつがへされ、黒い人の流れは絶間なく厳島の町を織り、神社も一般商家も嬉しさと忙しさがいつしよに来て寧ろ面喰ひ、これを取締る警官たちも時ならぬ（ついでに）を流して活動する大繁昌を呈した、午後からの人出は午前にもます一層の大混雑であつた、三笠ヶ浜から神社大元公園一带の神燈の灯がやうやく点ぜられる午後八時過には、相場立会所を中心に長い神社の回廊までも文字通りの身動きならぬ人出となつた、やがて午後七時相場開始のチヨボを合図に、二千数百名の立会者たちは赤シャツ縞の浴衣と各自思ひ／＼の衣装に捻鉢巻姿も勇ましく、社務所から授けられた紅白安産守りの櫛二本を肩に、昭和二年度の吉兆を迎へる祝福の御神酒をいたゞいてドツと喊声をあげ

つゝ、「ナゲ、カヒ」の言葉と共に喧々とても素晴らしい盛況を呈したが、色濃い不景気の影はこゝにも襲来して、好況時代に見る様な活気もなく賽銭箱に投ぜられるお賽銭も紙幣や銀貨の姿を減多に見ず、たゞ好況を呈したのは満員つゞきの物産店、旅館、料理屋、遊廊などで、殊に厳島券番は当夜珍しくも箱切れといふ有様であつた

519・昭和二年二月二十五日夕刊

厳島神社の宝物館の設計 ほゞ出来上つたので 菊池宮近く上京 屢報——厳島神社が過る帝都の大震に鑑み、如何なる震災にもよく耐え得る理想的大宝物館を、神社西回廊出口元厳島水族館跡五百坪の敷地を買取して建設すべく、内務省大井技師に依頼中の設計図も略出来あがつたので、菊池宮司は近く上京の上大井技師に面会、内務省とも建築その他について協議すると、なほ回廊・屋根の大修理も新年度からいよ／＼着手される模様である

520・昭和二年二月二十七日夕刊

厳島の長い回廊や朱の大鳥居を約三万円の経費で
いよ／＼修理に着手

厳島神社では、宮島さまを表現するあの朱の大鳥居とともに、世界的建造物として参詣者の眼をひいてゐる海に浮ぶ龍宮の如き長い回廊や平舞台が、永い年月の間に雨雪が風にさらされ近來見にくい程度に至るまで破損して来たので、これが大修理方をかねて計画されてゐたが、来る四月の年度終りから修繕費約三万円を投じ、いよ／＼大修理に着手し、今秋の紅葉のシーズンまでには完成さすことに決定、菊池宮司はこれのため来る三月五日から一週間の予定で上京、内務省当局と打合せをなす筈である

521・昭和二年四月八日

厳島神社の桃花祭 十六日から執行

厳島神社年中行事の桃花祭は、厳島全町の桃花が一斉に咲き綻ぶ春の来る十六日から三日間盛大に執行され、神社独特の神能・舞樂も献納されるが、第一日の神能プログラムは翁、高砂、田村、羽衣、葵上、大江狂言（築紫奥、宗論花争ひ）などで、観桜客と参詣者で狭い厳島は人の渦を巻くであらう

522・昭和二年四月一五日夕刊

厳島を中心に 瀬戸内海を 国立公園として 世界的に宣伝する
厳島を中心とする瀬戸内海国立公園設立、即ち向宇品、鞆港の仙酔島、道後、高松の栗林公園及び讃岐の屋島を一元とする名所旧跡及び森林公園を形造して、之等諸名所を迅速に回遊し得る連絡船をも造船計画する事は、秘密裡に内務省から本県へも其の意向をもらして居るが、之には内務省嘱託田村林学博士が主として国民保健衛生の立場から研究し、関係地方・県に其の運動を促進中である、而して近年欧米各人が世界的公園として厳島を遊覧する折から、是非共如上の各名所遊覧地をも連結して遊覧せしむべき施設を必要とするが、厳島は全部国有林であるから農林省山林局の了解を得て国有林の解放をせねばならないが、差あたり此事は来る廿三日愛媛県山林会主催関西連合山林大会に付議する筈で、之には関係地方の協力を要するので、内務当局も之には多大の援助を与へ、本県よりは和田農林技師臨席、之が設置促進を図る事となつた

523・昭和二年四月一五日夕刊

厳島神社の境内に 露店商人を厳禁

世界的遊園地として年々多数の觀光団が押寄せて、春夏秋冬を問はず殆ど不景気知らずの別天地である厳島に、近來暴力をむさぼる悪商人連が入り込んで、折角の觀光団をして不快の念をいだかしめ、ひいては厳島町の發展上に非常な悪影響を及ぼしてゐるのにかんがみ、池田厳島署長はこれが徹底的取締を行ふべく厳島神社当局と協議の上、今

後は神社境内に一切露店商人を厳禁するとともに、一方町商工会とも協議して、正札つきの薄利多売主義をとる様奨励することになった

524・昭和二年六月一四日夕刊

軍艦隠戸に敵島の市杵島姫を祀る

呉軍港所属軍艦隠戸は、人も知る如く重油輸送の軍艦として、戦時は勿論、平時に於ても軍艦から軍艦への重油補給の重大任務をおび、万一同艦航行中支障を来す様な場合でもあれば、全艦隊に影響を及ぼすほどの責任ある軍艦であるにかゝらず、未だ館内に守護神の鎮座もないので、かねて海軍当局でも種々講究されてゐたが、いよ／＼今回海の守護神として船乗業に信仰篤い敵島神社の祭神市杵島姫を艦内に祭ることになり、来る三十日南洋出航の途次敵島に寄港、菊池宮司以下神官多数列席の上、守護神鎮座の祭典を挙げると

525・昭和二年六月一八日

けふでは玉であるが、その昔は人形の首

奪ふのも子供に限られてゐた 敵島神社の玉取祭

敵島神社の玉取祭は昔は延年祭と云つた、旧七月十四日夜僧侶々官大宮に参進して行つたもので、其の次第は大きさ五尺ばかりの地盤と称する台の四隅に松梅桜の造花をつけ、シデをたれ、其の台に福神の三尺ばかりの像に美しい装束を施し、燈明を点じて拝殿の上に釣り下げておく

薄暮——社役の鐘を合図に、町内東西から男子が皆裸体散髪して鯨声を挙げてはせ集まり、此盤を窺ひ酉の刻供僧が回廊を参進して拝殿に入り色々の儀式の後台を下すと、待受けた東西の男子共が争つて人形を取る、供僧は大宮から客人宮に参進して処殿に列座、供僧の中の若い僧が一人御殿に向つて舞ふ、他の僧の内の一人が笏拍子ではやす、この舞を延年の舞と云ふ
この間裸体の男子共は地盤の人形を争ひ、回廊又は海中でもみ合ふ、

そして争ふものは人形の御首である（例年七月二日に座主が造るのである）併し海中でもみ合ふのであるから彩色はとれ、耳鼻ともなくなつて福神とも何とも知れないものになつて仕舞ふ；が此の首を得たものは大きな福があると云ふ事である、其のうちに争ひが余りに甚だしくなつたので、文^{ぶん}年^{ねん}年^{ねん}間に十五歳以下の童子に限る事となつた、毛利家時代には人数も三十人、年は十五歳以下と限られた事もあつた延年の舞は仁和寺の御門主、南都水嶺の大官に年頭の御祝事を言上する時、御門主から杯を賜ふ際舞ふものであつたのが諸国に行はれるやうになつたもので、敵島神社の仁和寺御門主仁助法親王が大聖院に御止柱の頃から始まつたものらしい、そして此の舞がある故延年祭の名称が出たものである

この祭典は明治御維新後一時中絶したが、明治廿年後再興、此の時木像が宝珠に改められた

又神仏分離後は供僧なき為延年の舞を廃せられ、夜中に行はれて居たのが昼間満潮時をもつて行はれるやうになつた、今其の模様を記せば旧七月十八日（此の日は延年祭と呼びし頃、御洗といふ事が行はれた日である、即ち延年玉取の際汚れた回廊社殿等を潮水をもつて洗ふ式である、明治の末年まで行はれた）午前十時祢宜以下祓殿で修祓（同町長以下世話係一同参列）終つて本社に参進して玉取祭を執行した後、満潮時を待つて火焼前から船に乗つて玉台に宝珠をのせる

玉台は火焼前から約十五間沖に建てられた高檣に下げられて居つて、火焼前から引綱で上下する事が出来るようになって居る。

群衆は此の宝珠をとらんと海中でもみあふ。とつた者は三カ所に設けられた注進所（本社拝殿内の応接室、三笠浜の一ヶ所、西松原の一ヶ所）の何れかに持込んで世話係に渡せばよいのであるが、玉を奪ひ合ふ為、多数の群衆がもみ合ふ様は芋の子を洗ふやうで壮快である

宝珠を得たものは神職から家内安全、家業繁栄の祈禱をなして貰ひ、金幣及び神酒を頂戴した上宝珠と福神一対、白米三俵乃至五俵及び副品として諸方から寄贈の景品を授与されたのである。

526・昭和二年六月一九日

厳島参詣道を県営で新設 多年の懸案解決して

いよ／＼この八月に起工

日本三景の安芸宮島の厳島神社参詣道の新設は数年来の懸案となり、厳島町は勿論広島県でも重大視し数次の具体案作製考究の結果いよいよ此度県費をもつて新道を作る事に内定した、為めに厳島町長・町会議員は十八日午前相連て県庁土木課を訪れ、予て町会へ県から諮問してゐた案に対する答申と修正案を提示した、土木課案に依れば町の希望条件を全部入れられて、現在の鉄道栈橋から海岸通りを幅つてある道路を一直線に延長した——商船栈橋出入口から第一石の鳥居迄への線——線から以東の海面約千坪全部埋立て、新参詣道は海岸道路と同様な路幅をもたらし約三丁に亘る一直線路を作る事にしたものである、然も此の新路を常に往来せしめる事とせば、従来の商業地域の盛振を奪つて仕舞ひ華やかな宮島を消す事になるので、常は新道の出入口に大門を建て、自由な往來を禁止、従来の通路を交通せしめ、貴賓方又は大祭の際には之を開放して往来せしめるもので、毫も商家の不便を招かせしめる事のなきものであるが、更に道路以東の埋立地は在来の道路から通ずる小路を設けて往来せしめ、こゝに大遊覽場を設ける計画のものであつて、此れに要する総計算は約五万円見当とされてゐる、厳島町も此案には大賛成で、唯道路完成の上岸壁に数個の突堤を築いて船舶繫留の便に供されたいとの修正意見をなしてゐるので、県当局も之を容るゝ事となし、八月頃から着工する筈である

527・昭和二年七月五日夕刊

何時までも増加しない 厳島神鹿保護繁殖

密猟者がある時には容赦なく検挙し厳罰

厳島の神鹿は社頭の明燈大元の桜、瀧の宮の水蛭、鏡ヶ池の秋月、有の浦（海岸通り）の客船とともに厳島八景の一つに数へられ、殊に神社境内の鹿寄せときては内外遊覽客の眼を喜ばしめ、奈良春日明神境

内に於ける神鹿と同様、厳島の景趣になくはならぬ一名物であるが、とうしたものが繁殖率が非常に悪く、何時までたつても頭数が殖えぬ様な観があるので種々調査されてゐるが、或一説に依れば鹿は不老の葉或ひは若返りの妙薬になるといふ支那から伝へ来た古い言葉を信じて密猟者が入込み撲殺、これを海外に密輸出するとも言ひ、或は海を渡り対岸大野村に逃るとも伝へてゐるが、神社並に厳島警察両当局では協力一致もつて神鹿の保護繁殖をはかり、万一噂の如き密猟者でもあれば、此際容赦なく検挙、厳罰に処す方針であると語つてゐる

528・昭和二年七月一六日夕刊

厳島の管絃祭に押寄せる人波

正午までに一万五千名に達し なほ続々として参拝

けふは厳島の管絃祭である、波静かなる内海に鎮座まします海国の守護神として、靈験いやらこなりと海の子達が伝ふ市杵島姫を祭る厳島三大祭中の、最も賑やかなお祭りであるだけ押寄せる参詣客もまた物凄、十三日は一千三百五十名、十四日は三千七百九十七名、これらの人は概ね田舎の人や県外からの参詣客で、祭典当日の混雑をさけるためにと前日から汽車・汽船・帆船により厳島を訪れ、旅館に、帆船内に或ひは神社回廊上に夢を結んで、今日の佳き祭の日を待わびたものである、広島ガス電軌宮島線では広島市内の賓客、付近の善男善女のため、けふは甲斐町駅から新宮島終点駅間を会社ありだけの電車を出して殆ど十分間おきに市内電車と連絡をとつて運転し、厳島連絡の機船や鉄道連絡の七浦丸も上下着車毎に、なだれの如くさん橋にさい客をはきだし、正午までの来島者実に一万五千名の多きに達し、大元沖から長浜沖一帯にてい、泊中のはん船と相まつて、まつたく海陸人と船とで埋るの盛観で、露店市場興業物も声をからして客を呼び、取締の警察官はこれらの間を縫ふで汗ダク／＼の活動をつゞける等、厳島町内は湧きかへる様な賑ひと雑踏を極めてゐるが、午後は管絃祭船拝観のため一層広島方面からの人出が増加してゐる様である

例年よりも 船が少ない すべてで三百艘

厳島管絃祭は十五日夜盛大に執行され、正午までに既に一万五千名の善男善女がおしかけにぎはつたが、本年は祭典数日前までいんうつな梅雨が連日ふりつゞいて農家の仕事がおおくれとなつてゐると、学校の休暇期に入らぬためか、県外並に郡部地方からばん船を利用しての賽客が以外にすくなく、十五日正午までの長浜沖から大元沖に入港停泊中の帆船は約三百隻で、例年の半数にも達せぬ有様であつて、陸地の雑踏に比し海上の昼は海の祭りとしては少し物足らぬやうな感があつた、因に海陸共警戒よろしきを得て正午まではこれといふ事故もなかつたらしい

529・昭和二年七月一七日夕刊

厳島の管絃祭に 争議団も行商

余りの雑踏で泥酔者が海に転落 青年団員が漁夫の利
古代の絵巻物を観るやうな関西きつての大祭の厳島管絃祭は、既報の如く旧曆十七夜の十五日いと壯厳裡に執行され、末松県知事・阿部検事正一行の参拝を始め、全国各地から押寄せた此日の賓客は、汽車によるもの五千二百六十三名、電車によるもの約六千五百名、汽船によるもの一千八百名、発動機船・帆船によるもの等を合せ、未明から夜にかけて凡そ六万の人が狭い厳島になだれ込み、碇泊汽船や帆船内の宿泊者をのぞいて、旅館に三百五十名、神社回廊上に二千百十三名の人、厳島町に宿泊人も船も午後の潮時から一層増して、正午まで僅三百隻位ひの少数であつた汽船帆船も、点燈時頃には九百二十五隻の多きに達し、神輿を奉じた管絃船が神楽を奏しつゝ大鳥居沖に出御祭を執行する頃には、宮島ホテル滞在中の外人連も不思議さうに一般賽客の人にまぢり管絃船を拝観せんと、海岸通りから神社回廊一帯はいもを洗ふやうな混雑で非常ににぎはひ、当日神社のお守札受けだけでも一千元を突破(おさい銭は不明)するの盛況を呈し、宮島物産・旅館・料亭・カフェー・飲食店等の収入も相等多額に上つてゐるが、露

店で意外の収入をあげたのは、長浜公園グラウンド建設基金募集のため厳島青年団のついた一石二斗の餅売切れ、厳島婦人会・同処女会の菓子や飲料水の販売、変わったやつでは中国製紙争議団の行商隊等であつた、なほ同日九時頃安芸郡音戸町〇〇吉太郎が泥酔し長浜沖で発動船昭和丸から過つて海上に転落不明となり、スリ常習犯女一名、泥酔・喧嘩・無銭飲食等の検束八件、迷子が五歳の幼児から七十五歳のおばあさんまで約三十件、遺失が十三件、拾得が十二件、他説諭等は数へきれぬほどあつて、当夜の雑踏を雄弁に物語つてゐる

530・昭和二年八月一日夕刊

厳島神社の名木 大げやきの木倒る

電信電話線を切断し火を吐かせ 真ッ暗闇で大混雑

厳島神社の本殿を回る玉垣内に、青々と繁茂してゐた周囲一丈二尺高さ七丈四尺のケヤキは、祭神市杵島姫が厳島の地に始めて御降臨になつた当初、即ち神代の頃からあるといふ大名木であるが、十日午後八時五十分頃大音響とともに根こそぎ道路に横倒れ、付近を回る玉垣奉獻の唐獅子を滅茶々に破壊し、更に神社旧宝物館の外柵を突き破つて番人の宅を破壊、警察専用電話線を切断通話不能に陥らしめ、広島電気会社高圧線架設の電柱数本を倒壊し、電線切断付近はこれがために一時消燈のやむなきに至り、切断高圧線からは物凄い火を發し交通危険となつたので、厳島署は直ちに消防手の非常招集を行ひ交通を禁止するとともに警戒したのと、夜間であつたので幸い人畜には死傷者を出さなかつた、因に倒壊の原因は連日の雨で地盤がゆるみを生じてゐるところへ、雨量の重さに堪へかねての倒壊らしく、名木の事としていたく惜まれてゐる

531・昭和二年九月一日

厳島の参詣道路 十四日埋立地鎮祭を行ふ 明年春には竣成

町営派と県営派と二派に別れ、長い間紛争をつゞけてゐた厳島商船棧

橋から三笠ヶ浜石鳥居口に至る海岸埋立て（参詣道路新設）問題は、既報の如く県営に可決され、いよいよ、昨十四日午後四時から埋立予定地の石鳥居付近海岸に於いて、県庁代表者、原土厳島町長、池田厳島署長その他地方有力者参列の上、盛大な埋立地鎮祭を執行したが、工事は東京の株式会社橋本組が工費三万五千円で請負、明春の桜咲く頃までには是非とも立派に竣工さすべく、直に着手工事を督促することになった

532・昭和二年九月三一日夕刊

秋の厳島にきれいな大菊花園 余興として宮島踊りや活動写真
来る十五日から開園

天下の遊覧場として年々百万に近い遊覧客を吞吐する厳島町も、史跡と自然の美景をほこるのみで、従来人工設備のある特殊遊覧余興場がなかつたため、折角県外から多数の人が押寄せても、終日殊に夜間等に至つては全く手持ち無沙汰の感があり、厳島町発展策のため町有志仲間にはこれが善後策について屢々協議をなしたる結果、先づ厳島鉄道棧橋駅から潜龍門を出た直ぐの長浜公園入口広場へ、今秋から『安芸宮島大菊花園』と名づけ、草津町菊楽園に対抗し、眼新しい菊人形や菊花壇を昼夜遊覧客に公開し、特に余興に至つては厳島名物八景踊りや活動写真を加へ、更に明春は園の内外を拡張して霧島人形を公開するほか、四季の樹木・草花を付近一帯に植つけ、目下設計されてゐる長浜グラウンド、大温泉場、海水浴場などをうまく結びつけ、阪神の遊覧地宝塚同様、厳島の新パラダイスとして四季遊覧者に公開する様な計画を進めてゐるが、今秋の菊人形は来る十五日頃から華々敷蓋を明ける模様であるが、菊は何れも菊花の名所名古屋から移植したもので、大小二千数百種、人形の場面は見流し、佐賀の夜桜、娘道成寺、丸橋忠弥、揚巻助六、上野三枚橋、十二段返しは石童丸、博多三勇士、お俊伝兵衛、千本桜、足柄山、紀文の船（以下判読不能、略す）

533・昭和二年一〇月二七日夕刊

厳島弥山々頂へ 大きな観音堂建設

明治大帝行在所跡付近へは 皇族貴賓の休憩所
厳島大聖院では、過ぐる明治十八年七月明治大帝の中国地方御巡幸に際して厳島に御臨幸あり、同院をもつて行在所にあてさせられ一昼夜の聖駕を駐めさせ給ひ、かつ御思召をもつて金若干円御下賜の恩典にあづかり、大同元年弘法大師開基以来厳島の総本坊として、御歴代天皇厳島行幸あらせられる毎に御臨幸の榮を荷ひ、特に天正年間御奈良天皇の御猶子伏見宮一品任助法親王の法統あつがせ給ひ、遂に同院にて薨去あらせられた由緒ある特色を發揮し、永久に聖旨を酬ひ奉らん事を期してゐる矢先、不幸にも明治二十二年二月由緒ある諸堂宇を悉く炎上のため鳥有に帰せしめ、爾來廃領せる史跡を存ずるのみで、故小松宮彰仁親王御台臨の砌史跡を御覽せられて、いたく御嘆惜のあまり旧觀復興の実をあげよとの優渥なる御令旨と金一封を賜つてゐるが、今日まで経済界の不況や種々な事情のもとに容易にその運びに至らず、まことに遺憾とされてゐたが、今回右弥山大聖院の興隆発展を期すべく広島市中心に組織され、会員約六百余名を有する厳島弥山婦人会ではいよいよ復興計画をたて、先づ同院に祭られてゐる行基菩薩自作として近く国宝に申請するといふ由緒ある大観音像を安置する仏堂と、皇族・國賓の休憩室を加へた八間四方の大観音堂を、明治大帝御行在所跡付近へ、また弘法大師修業以来消えぬといふ弥山不消火の靈堂を三重層式に改め、なほ弥山絶頂奥の院付近へも皇族その他貴賓の休憩所建設の大計画を進め、大聖院と目下協議を重ねてゐるが、これが費用は婦人会の活動によつて資金されるものであると

534・昭和二年一二月八日夕刊

厳島のケーブルカーは結局許可にならぬ

神社大修理完成報告から帰つた 菊池厳島宮司の談
厳島人神社の大修理完成と国幣中社速谷神社（平良村）の竣工報告、

その他の要務を帯て上京中であつた菊池宮司は七日帰広して語る

厳島・速谷両神社の近況報告や、軍艦安芸からさきに厳島神社へ奉獻された「平和の錨」の保存方宝物館の建設等について、宮内・文部・内務の各省を訪問しそれ〴〵了解を求めて来たが、目下文部省で熱心に研究されて来議会には提出する運びとなつてゐる、現行古社寺保存法を發しこれに代ふる国宝保存法制定に□する件は特に厳島との関係も深いので、上京中に直接会議へ臨んで種々意見を述べ、現在厳島神社に保存されてゐる国宝百二十五点以外の貴重宝物三千余点についても、充分国宝として価値あるものがあるので、これが査定方を早速当局に陳情したところ、本年度は既に予算もないので明年度の予算をもつてそれ〴〵専門家を厳島へ派遣し、細密な宝物査定を行ふといふ回答を得たから、議会通过の暁は宝物査定とともに国宝へ推薦されたものが多数あるだらうと思ふ、また先年来問題となつてゐる厳島対岸赤崎鉄道沿線の仁助法親王御陵墓については、真疑判明せず目下候補地として専門家が研究をつづけてゐるが、今のところ有力な候補となつてゐるのは事実で、多分明春頃再び歴史家が訪れ細密な調査をなす筈である、然し御陵墓として確認されるまでにはなほ相当の時期を要する事であらう、近時史跡名勝地を利用し私設登山鉄道を計画するものが増加し、現に厳島でも二三ある様に聞いてゐるが、史跡名勝保存の意味で政府も極力反対し、現に奈良三笠山のケーブルカーの如き殆んど工事ならんとする問題にあたり不許可の命が出たやうな次第で、随つて厳島の弥山ケーブルカー等は政府当局に於ても極力反対してゐるやうだから、とても許可になるやうな事はあるまいと思ふ云々

535・昭和二年一月九日

厳島神社の一大宝物館

一時立消える姿であつたが 明年度内に工事が
厳島神社では屢報の如く、大元公園入口の元厳島水族館跡を買収し一

大宝物館建設の計画をたて、既に内務省大井技師の手で如何なる震災にも耐え、しかも神地厳島の背景を壊さぬ理想的なものを設計し、千疊閣の豊太閤神社の平清盛といふ具合に、一建立で永久に歴史的に残るやうな希望をもつて篤志家の出現を待つてゐたが、全国的の財界不況と殿様銀行十五を始め多数銀行の取付から閉店、モラトリアムと突発的に種々の障害をうけ、爾来殆ど立消えの状態にあつたが、昨報の如く現行の古社寺保存法が廃され、いよ〴〵来議会で新国宝保存法が制定にでもなれば、現在の国宝百二十五点以外になほ貴重宝物三十余点のうちからも、査定の上相当国宝として推薦されるも□もあるもので、一層完全な宝物館の必要に迫られるので、菊池宮司は此程上京の際文部・内務各当局の了解を得るとともに、在京有力者にこれが援助方を懇願し、なほ厳島の史蹟と関係深い浅野・毛利両家へも事情を述べ、既に毛利家では応分の寄付をなすべく内意をあたへてゐるさうだから、十五銀行でも開業し財界が幾分でも安定すれば寄付も相当に出来て、明年度内には案外工事の一部でも着手されるやも知れぬと観測されてゐる

536・昭和二年一月二十四日夕刊

厳島神社は恵方に当る

卅一日の火難除祭より引続き 初詣りで賑はん

厳島神社では、既報の如く来る三十一日午後六時から恒例により火難よけの鎮火祭を執行し、町民は大小「松明」数百本をかつぎ出して、揃ひの衣装に勇ましい鉢巻姿で、石鳥居口から三笠ヶ浜一帯をワツシヨイ〴〵の掛声で練り歩るき、諒闇明けの新春を待ち千疊閣の除夜の鐘が晴々と告ぐる頃から神秘的の御衣献上祭が執行され、引つゞき元旦祭と芽出度い祭典が古式に則りいと壯厳裡に行はれ、殊に明春は同地方が恵方にあつてゐるのと、諒闇あけの芽出度いお正月であるため、多数の初詣で客がある予想で、電鉄宮島線運輸課でも特に特別電車を出して割引する計画を立てゝゐるが、神社では元旦から三日間の

初詣りする善男善女に対し、特に祭神の御衣をもつて作つた守札と火難及び盗難よけの守札を、希望者に授与する事になつてゐる

537・昭和二年一月二四日夕刊

厳島神社の献詠歌題 祭典前日迄に

厳島神社では毎年同社の月並祭（毎月十七日）当日、全国各地の有名な人から多数の献詠があるが、明昭和三年度の献詠歌題は左の如く決定したが、月並祭に献詠せんとする有志は、短冊の裏面に位勲・爵名及び住所氏名をも詳記して、祭典前日までに詠進すればよいと

月別献詠歌題Ⅱ 一月試筆△二月節分△三月帰雁△四月野遊△五月新緑△六月橘△七月夏草△八月瀧△九月野分△十月擣衣△十一月枯野△十二月霰

538・昭和三年一月一日夕刊

厳島神社の 神前相場は 来る二十八日に執行

數百年來毎年旧正月六日の夜執行され、各地方人士が神前に於てその年の豊凶を占ひ、その得たる相場によつて互ひに売買の状をなして心中の慰安を得るといふ、世に有名な厳島神社年越祭の神前予想相場は、来る一月二十八日午後六時を期して盛大に執行されるが、本年は諒闇明けの昭和の新春、殊に秋冬の候には聖上御即位の御大典を挙げさせられる千載一遇の芽出度き年であり、また財界の不況も漸く恢復の曙光が見え、新春劈頭の神社参拝をかねた神前相場立会も頗る興味深いものである、因に当夜は古式に則る大福引も行はれるが、今年は大籤賞品もうんと奮発されて小川清処、里見雲嶺、田中頼璋、田村彩天、橋本静夫諸先生の揮毫になる絹本掛軸箱入各一幅の外、福神像、守札、大麻その他三百等まで授与されると

539・昭和三年一月一日夕刊

不義の恋を恐れ 厳島で情死

苦悶の声を聞いて女中が駆つけ 幸ひに一名を取止む

世界的遊園地となつた時の厳島が、自殺、情死者の汚れた血汐に禍されて、今や「死の厳島」と呼ばれるに至り、昨年中既に十一名といふ多くの自殺者があつた事は昨紙所報の通りであるが、一昨九日午後三時厳島町海岸通り旅館大根屋に於て……「私達は最後の地と定めた此の美しい絵の厳島へ来ました……そして今日までこの世の名残に遊びつめました、二人共冗談に花を咲かせて、こゝへ死を求めて来たものとは思はれぬほど……私たちは今旅館大根屋の一室で最後の楽しい語りひをつづけてみます、死は目前に迫つてゐるのに、私達二人の心は丁度此の室の下からつづいてゐる瀬戸内の波のやうに、静かで春のやうに極めて長閑です（以下略す）……と、美文でながくしたためた後に、存在中親交厚かつた友人や主家らしい人達にあて、兩名の屍体の処置を詳細に依頼した数通の遺書の中へ、大元公園をバックに此世の名残に写した記念写真数枚をそへ、発送方を大根屋主人に依頼し、毒薬を嚥下した男女の初心中があつた

男は山口県防府町三田尻中園OK自動車運転手○○勝（二三）、女は同町重村自動車商会運転手○貞一内縁の妻○○キサ子（二六）で、兩名は七日夜厳島に渡つて前記大根屋に偽名投宿、此の世の名残りに絵の厳島を心ゆくまで見物した後、八日午後二時遺書をしたため、まずカルモチン（チモチン）を嚥下したが失敗に終つたので、九日午後三時再び毛髪染料「ルリハ」を買求めてこれを嚥下したが死に切れず、女はしきりに苦悶を始めて口中から何もものを吐き出し、到底これでは死なれぬからあなたの強い手によつて首を絞め一思ひに殺してくれとの事に、男は馬乗りとなつて女の首を絞め一時は人事不省の状態となつたが、男も全身に毒薬が回つて思ふやうに出来ず、兩名が苦悶の声をあげてゐるのを仲居が発見し、大騒ぎとなつて厳島署に届出で応急手当の結果、幸ひ余病の併発せぬ限り男女共生命は取止めるらしく、厳島署では直ちに関係者へ電報をもつて照会してゐる

男は全快を待つて自殺幫助罪として取調を行ふ模様である、因に心中

の原因は、勝とキサ子とは昨年十月頃から貞一の眼を盗み今日まで関係を結んでゐたが、最近貞一の知るところとなり、姦通の告訴を恐れての結果らしい

540・昭和三年一月一八日夕刊

厳島神社で 神前結婚 やきもちの神様ではない証拠に
今年も二組の結婚式

厳島神社の御祭神は、天照大神と須佐男尊が劍玉御誓ひの御砌お生れになつたといふ市杵島姫尊を始め田心姫と湍津姫の三女神である、かやうに昔から姫君さまを主神に祭つたお社だから、結婚前の男女や若夫婦が連れだつてお参りすればきつと神さまは焼餅ちをやかれ折角結ばれた縁もブツリト切れる等と、神社への参詣をにだしに宮島遊女町へ足ぶみしてゐな^{つて}チヨン鬻時代の不良ものゝ悪宣伝が遂に変な迷信伝説となり、昭和文化の今日でもなほ片田舎ではこんなつまらぬ迷信をいだいて居る人もあつて、神様こそ全く迷惑な話である、先年来神社ではあらゆる方法をもつてくだらぬ迷信を打破一掃すべく努力した結果、最近では男女若夫婦の参詣は勿論、宮司さんが媒酌となり進んで神前結婚迄を希望するやうな新らしい人もボツ／＼出来、殊に今年には恵方にあたつてゐるわけでもあるまいが、既に二組の神前結婚が挙げられ、昨十六日も午後三時から某家の神前結婚がいと厳肅裡に行はれた、かくして迷信は漸次打破されて行くのであるが、神前結婚は神さまの前で神官及び媒酌立会の上、新郎新婦が結婚の誓ひをなす極めて厳肅な式で、然も短時間で終り経済上から見ても至極結構な事で、神式費用としては十五円からザツト二十五円までゝある、なほ式後の披露宴は殆んど宮島ホテルで催されてゐるが、これも前記迷信打破の意味に於て特に結婚披露宴会場を設備するに至つたゝめである

541・昭和三年一月二八日

厳島神社の 年越祭に 多数の敏腕刑事

旧正月六日夜、毎年盛大に執行される厳島神社の年越祭神前予想相場は、いよ／＼今二十八日午後六時から全国の相場師連が多数立会の上いと盛大に執行され、なほ厳島弥山大聖院の初不動祭も本日執行されるので、今日の厳島は天候さへ恢復すれば、諒闇明けでもあるし、多数の人が午前前から押しかけて雑踏を極むべく、所轄厳島署では広島東西、宇品、呉、廿日市の各警察署から選抜した敏腕刑事・巡查十余名の応援を得て、二十七日夜からスリや不正露店商人等一步も足踏させぬやう警戒にあたなど、全町お祭り気分が漲つて居る

542・昭和三年一月二九日夕刊

けふ厳島神社の神前相場に
全国各地からドシ／＼参拝者押しかく

旧正月六日(二十八日)の厳島町は、恒例の年越祭神前予想相場立会と、靈験あらたかな弥山及び大聖院の初不動祭が何れも盛大に執行されるので、未明から全国各地の相場師を始め料亭の女將・芸妓達が、昭和新春の吉凶をうらなふ連中や開運祈願の一般参詣者が続々と詰かけ、正午までに来島客三千名を突破して町内は混雑を極めて居る

543・昭和三年一月三〇日

諒闇明に気乗つた 厳島神前相場

気配は米株何れも良好 来会三千場立は賑やかに
関西の名物行事として名たゝる厳島神前相場は、二十八日午後七時から前人氣華々しく開催された、流石に諒闇の雲ははれて、環境人氣の善化と前途に多くの期待をもつ人の心の発露は、昨年の行事よりも一際景気好く場立ちの懸声も豊であつた、来会無慮三千、夏米の寄付から順を追ふて進む出来値は、時に素人筋の珍値も弗々出現、夏米の高値三十七円、鐘紡の三百三十円、鐘新の二百円又は大株の二百円さへあり、東新の三百五十円、安値百五十円なぞ比較的順当なものも数々出て、地株広取の総高値百廿円、又は小ひとく叩き付けた六十円も面白

く、広電の八十円も出現した、広瓦の七十円、安値六十円、此頃需要
 激進の人造絹糸なんぞ突飛に二百十円の総高値が生れて終始興味を
 そゝり、概して寄付は渋つて止は活気があふれたが、約めて先高見越
 はほの見ゆる、名に負ふ神前相場の妙趣は刻々に流露して総体気乗順
 当な場合であつたと見らるゝ一方、新麦は総平均十四円十二銭を表現
 し、大麦は十円二十八銭、小麦の十七円九十五銭、大豆の十八円三十
 八銭、小豆は二十三円三十五銭となり、生糸は昨今米国方面の実需が
 益々好転模様であり、内国的に人造絹糸の活躍があつても輸出は昨年
 の好調に一層昂進すべく、神前相場は茲許高値千七百円、安値千五百
 十円で、平均千四百十七円、玄人筋の比較薄に拘らず出来値は先づは
 順調か、次の綿糸は総平均二百七円、本立会は一節より三節迄前後三
 時半を闊して結着、相場の算定が終了したのは実に午後十一時二十
 分、東は京阪神より下は下関・熊本・長崎より斯道の猛者集ひ来つて、
 終始感興津々であつた、左に当夜の米株外各銘柄出来値を表示する

銘柄	寄	止	総高値	総安値	総平均
夏米	三三〇〇	三五〇〇	四〇〇〇	二五〇〇	三四四五
朝鮮三等	三三〇〇	三二〇〇	三五〇〇	三〇〇〇	三三三三
鐘紡	二五〇〇	二七〇〇	三〇〇〇	二四〇〇	二七五五
鐘新	一六〇〇	一八〇〇	二〇〇〇	一三五〇	一六一七〇
大株	一一〇〇	一一〇〇	一二〇〇	一〇〇〇	一一二五〇
大新	九三〇〇	一一〇〇	一二〇〇	九〇〇〇	一一〇九〇
東新	二〇〇〇	二〇〇〇	二二〇〇	一五〇〇	二一一五〇
久原	六二〇〇	六九〇〇	七二〇〇	六〇〇〇	七二二〇〇
広取	一〇〇〇	一〇〇〇	一一〇〇	六〇〇〇	七二二〇〇
間新	八〇〇〇	八〇〇〇	一一〇〇	六〇〇〇	八八五〇〇
広電	六五〇〇	六五〇〇	七〇〇〇	五〇〇〇	六六二八〇
広瓦	七〇〇〇	六五〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	六六二八〇
芸鉄	七五〇〇	六四〇〇	八〇〇〇	六〇〇〇	六八四〇〇
人絹	一三〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	九〇〇〇	一五二七〇
新麦	一一〇〇	一一〇〇	一二〇〇	一〇〇〇	一一四二二
小麦	一〇〇〇	一〇〇〇	一一〇〇	七〇〇〇	一〇二八
大豆	一八〇〇	一九〇〇	二〇〇〇	一一〇〇	一七九五
小豆	二五〇〇	二二〇〇	二八〇〇	一二〇〇	二三三五
生糸	一、五〇〇	一、三〇〇	一、七〇〇	一、一五〇	一、四一七
綿糸	二五〇〇	二四〇〇	二五〇〇	二〇〇〇	二〇七〇〇

544 昭和三年二月二〇日

各地と海上の連絡をとれ 敵島菊花園 重岡氏談

敵島国立公園問題

日本三景の一を誇る敵島は、古来詩歌にこの絶色を言ひ現さんとした
 ものかなり多く、歌人在原業平が「恩賀島のすがたもおのずから蓬
 が島もこゝにありけり」と、世に類なき蓬萊島もかくやとたゞ賞した
 のみで、その絶景を穿つ事が出来ず、また小野皇は「入海の八十島か
 けて十島なるなかに御香島はなゝしま」と幾つの島の中にもこれに優
 るものはあるまいと賛したばかりで、この歌により当地を恩賀島、ま
 たは御香島と呼んだ事もある、この一幅の活口は到底今文字をもつて
 簡単に賛する事の出来得ないほど、敵島の美しい景趣は既に詩であり、
 また絵となつてゐるのである、この天然の絶勝地へ加ふるに今少し人
 工の美をもつてするならば、一層変つた景趣を添いよゝ世界のパラ
 ダイスとして、その名声は中外に噴々たるものがあらうと思ふ、幸ひ
 御紙により日々報導されてゐる町有力者たちの敵島国立公園問題の意
 見が、大分社会の輿論となり、人の心を動かさしつゝある事は、敵島町
 将来のためまことに嬉しい事だと思つてゐる、然し、当地は御承知の
 如く極めて土地狭隘の上、史跡名勝保存：要塞地帯などゝ種々堅苦し
 い法規にしばられてゐる関係上、思ふ存分の改造設備も出来ぬが、私
 の理想とするところは、敵島の八景として古雅森厳を催さしむる社頭
 の明燈、桜花をもつて、その美を推賞されてゐる大元の桜、瀧の宮の
 水蛭、秋の月で名高い鏡ヶ池、谷ヶ原の神鹿、御笠ヶ浜の暮雪、弥山
 の霊鳥として名高い島巡りの神鴉、有の浦の客船と、今や時代の推移
 に伴ひ、多少その面影を異にすと言へども、敵島八景の名は宮島踊
 りの音頭に仕組まれて、遠く海外に知られてゐるやうに、将来の国際
 公園建設については、敵島を基点に内海周囲の島嶼部をも包囲したグ
 レート敵島公園となし、各島嶼部は思ひ切つた眼新しい計画と設備を
 加へ、敵島の新八景でもつくつて各地と海上との連絡をとつたなら、
 より一層多数の観光客を迎へて、敵島の将来は、大いにまつべきもの

があらうと思ふ

545・昭和三年二月二二日

国際公園地は最も緊要事 弥山婦人会 熊沢広島支部長談

厳島国立公園問題

日本の代表的景趣として、その奇景絶佳を誇る厳島は、近來外人観光客仲間殊の外賞揚され、年々多数の外人遊覧客を迎へ、本年も既に新春早々黄金の国アメリカから世界周遊巨船のベルグランド号が三百余名の大觀光隊を乗せて訪れ、なほ桜咲く陽春の候(ころ)にはお馴染のドイツから世界周遊大觀光団を乗せたレゾリユード号を始め、エムプレスオブ・スコットランド号が次から次と訪れる予定で、今や厳島は日本の厳島でなく、世界の厳島……夢のやうな一大楽園場として、世界の隅々まで宣伝されるに至つた事は、単に厳島町だけの喜びでなく、日本全体の美しい情緒と国風を海外に広く宣揚する意味に於ても、非常に喜ばしい極みである、私はこの期に際し、厳島をして現在より一層世界的な名公園たらしめ、前記の意味において将来多数の外人遊覧客を迎へたなら知らず／＼の間何れの国民とも対日親善がむすばれ、血なまぐさい戦争等もさげ得られる導きともなり、先づ一挙兩得にかんがみても、厳島を国際公園化さす事は最も緊急を要する一大事業である、今私の想像して居る建設案は大体左の条件である

- 一、史跡勝地を破壊せぬ程度に土地を膨張し、これに人工美を加へた平地公園を数カ処に設ける事
- 二、蒸発して居る史跡、たとへば大聖院境内明治大帝行在所跡の如き、至急復活せしむる事
- 三、伝説や史実のある場所は、英和兩文に示して遊覧客に便宜ならしむる事
- 四、弥山ケーブルカーは絶対に反対するも、七浦の秀景を巡る厳島の一週道路は速かに建設を望む
- 五、海水浴場の完備を図ると共に杉の浦辺りへ温泉場とグラウンドを

設ける事

六、拳町一致小事を捨て、大事にあたる事

七、対岸大野村と連絡をとり、同地も一大遊覧地を建設し、かくして

グレート厳島化す事

546・昭和三年二月二四日

国際公園として恥しくない 厳島対岸大野村M氏談

厳島国立公園問題

厳島を国際公園化さす事については殆ど反対の意見もなく、同町有力者を始め既に他地方の人までがこれを主張すると共に、種々と興味ある公園改革論を述べ、漸次輿論も高まつて來た事はまことに嬉しい事で、私はこれが実現期の一日も早からん事を希望するものである。さて、厳島を如何に改造すれば時代に適した理想公園となるか、それは人々によつて各自意見を異し、殊に同地は史跡名勝保存や要塞地帯と種々やつかい極まる制限もあり、その上、週圍僅七里といふ土地狹隘を感じ居る一島嶼部にすぎぬのだから、土地柄も余程考慮した上計画せぬと折角の天然の風致も破壊して、全く取返しつかぬ破目におちいる事になるが、では如何に改造したらよいか、私は先づ土地狹隘を感じ現在拡張の余地をもたぬ厳島としては、ぜひとも対岸大野村を中心に史跡伝説風致にとむ宮島沿線の地御前から宮内の各町村を始め厳島を基点として、内海付近の小島嶼部をも包圍したグレート厳島公園の範圍を広めると共に、現在厳島町も至る処に散在遊覧場とし幾分風致を破壊がちの工場建物、此際は、島から対岸の大野に移し、町内は民家の整頓とともに道幅を平均約三間道路に改め、更に一步進んでは七浦を徒歩で巡る巡環道路の建設を急ぎ、島の周囲には春夏秋冬の樹木草花を植つけ、営林署が向ふ宇品の山林へ計画して居るやうな具合に学生や一般児童たちの植物研究資料にあてる、他は島内を出来限り清浄な神域となし、グラウンドプール、大温泉場、劇場、活動写真館等の大衆的遊覧設備が万一必要とすれば、神域を離れた長浜公園付近

に平地を求めてこれを建設し、同時に鉄道電車の両棧橋をもつと東部に移転すれば賑やかな町筋もうんと永くつゞき、厳島町商店界(マヤ)の発展誘導の直接原因となるは勿論、間接に遊覧者に好感を持たす事になるから、随つて投宿客も従来より一層増加して来る事と思ふ、こうして先づ島内の充実を図り、しかる後に漸次対岸大野村にも手を延ばして、かの長州征伐や厳島合戦を忍ぶ史跡をバツクに種々な人工美を加へた公園を幾つもつくつて、海陸の運輸を便ならしめたなら厳島の声価はますます海外に高まり、国際公園として宣伝しても余り辱しくないと思ふ

547・昭和三年二月二六日

国立公園には賛成である 本社厳島支局K生

厳島国立公園問題

夢のやうな美しい景趣を誇る厳島を基点に瀬戸内海を包囲したグレート国立公園を建設して、桜咲く日本をあこがれ日々来遊する多数外人観光客を、必ずこの厳島に一度足止めさす方法を講ずる計画を樹て、厳島町民を中心に地方有力者までがこれを力説し、空想輿論から実現期……と漸次有望視されるに至つてた事は、実に嬉しい事である

◇

今まで延べられて来た各地方の厳島国立公園問題は、その人々の立場によつて各々意見を異にしてゐる、曰く弥山登山のケーブルカーは弘法大師開基以来の霊場を破壊し、また詩的風致を台なしにするから絶対反対であるといふ人……曰く時代に適應した文化の設備……弥山ケーブルは、勿論七浦の景を自由に回る循環道路を設けて、これを自動車でドライブさすといふモダン計画を樹てゝゝゝある人……曰く風致史跡を破壊せぬ程度に従来の船を捨て、七浦七胡子詣での一週道路(マヤ)を設け、浦々には春夏秋冬の樹木草花を植つけ、これに人工美を加へた平地公園やグラウンド、海水浴、プール等の建設を要望する人……曰く遊覧客の足止め策に大温泉場やオペラ館活動写真等を設けて、宝塚式

のパラダイス化さんと希望を持つ人……

かうした多種多様に亘る人々の意見のうちには、多少理想に過ぎぬものも、ある様だ、これもみんな厳島を如何に改造したなら世界に誇る理想的国際公園になるかといふ、将来の厳島を想ふ人の尊い意見であつて、ムザ／＼捨てるわけにはゆかぬと思ふ

要するに厳島を国際公園化さす事については、その改造論こそ異なれ殆ど目的の地点は一致してゐるやうで、厳島の町民が従来一致団結をかぎ、とかく私利に走り勝ちであつたといふ他方面の悪い噂もこれで立派に消えうせる事になる、大仕事をなさんとすれば詩情をすてゝ必ず団結、事にあたらねばならぬ、今日此の麗しい団結の気分が見えて来た事は厳島町発展の誘導機関となり、将来産れ出づる総ての事業計画に於て少からぬ効果があらうと思ふ

第三者の立場にある私個人の厳島国立公園に対する意見としては、猫額大のチツボケな島、殊に昔から尊い史跡伝説を残してゐる厳島の土地へは、余りモダンのな設計を加へず、菊池宮司さんの意見を略同様に風光明媚なる瀬戸内海を包囲したグレート国立公園の計画に賛成するものゝ一人である(つゞく)

548・昭和三年三月一三日

第一艦隊厳島に入港 十三日より三日前一般の拝観を許す

第一艦隊長門、陸奥、扶桑、那阿阿武隈、神通及び水雷戦隊、潜水戦隊数十隻の艦艦は、いよ／＼来る十三日夕刻、厳島杉の浦沖に入港碇泊して、翌十四日から三日間海事思想普及のため、一般の拝観を許し、十五日は特に午前八時半頃から各選抜のポートレースを催し、乗組員も毎日厳島に半舷上陸を許される事になつてゐるから、艦隊入港三日前の厳島は毎日雑踏を極むべく、各商店は既にこれが歓迎準備に忙殺されてゐる、なほ電鉄宮島線運輸課では、右三日間拝観者の便を図るため、毎日電車の増発と新宮島駅棧橋から二隻の機船をもつて、艦隊まで三十分毎に発船運賃の大割引を行ふ

549・昭和三年四月九日

回れば七里の全島は花と人の渦巻

近來にない賑ひを呈した厳島大聖院の入佛式

厳島大聖院三大法会（大師靈像入佛式大觀音堂再建地鎮祭御登山橋竣工報告並に渡初式）執行の日たる八日は来た！厳島空前の佛事大法会と平地創つて以来の橋梁渡初式が人気を呼び、その上丁度積尊降誕花祭りの佳日にあたつて居たゝめか、未明より厳島に押寄せる人の波は非常に多く、正午まで既に四千名の来島者あり、午後一時大師靈像渡御の大衆団は胸に輝く徽章にうらゝかな春陽を浴びつゝ、既報の行列順で法螺の貝を吹き流し平和な公園の夢を驚かし、厳島、呉、広島から参加した二百余名の稚児を始め二千余名の信者に守られ、大師を奉戴せるエボシ姿の傘下二十余名の風情は錦絵さながらの興を呈し、行列は浜の町海岸通りから左に折れて三笠ヶ浜を縫ひ、大聖院境内に御入着、午後二時大師を載せた輿は、先年聖上が皇太子に在します厳島に啓遊ばされ、弥山御登山の際御渡橋になり、今回鉄筋コンクリートに架橋した、思ひ出深いその名も「御登山橋」の渡初をなし、一応小憩午後三時各種法会の執行される頃には、行列に加はらなかつた一般信者並に沿道の觀衆は、逸早く境内になだれ込み、その数約五千名で身動きならぬ混雑を極め、広島のパノイスカウトはお巡りさんと共にこれが警備の任にあたり、街役員婦人会員達は來賓その他の接待に余念なき活動振りを示し、やがて法会執行合図の煙火は打ち揚げられ、当日の正導師役たる厳島大願寺住職を始め、金爛七丈の法衣に彩られた県下信言宗二十カ寺の代表僧侶参列の上既報の如き式順をもつて、壮嚴なる大法会を執行し、午後五時つゝ、がなく法会を終つたが、当日は水干美麗の天童子が雅楽に和する天女の如き舞……各地詠歌組の競詠等あり、時あたかも桜花満開の季節とて大聖院を中心に周囲七里の全島は、全く花祭りと言ひたいほど花と人とで埋るの賑ひを呈した、なほ厳島弥山婦人会広島支部では、当日法会前午前九時から慰安会をかねた七浦巡りを催した後、法会に参列、引つゞき春季総会

を開催し、大聖院再興問題その他寄金募集等について協議し午後七時散会した

550・昭和三年五月一九日夕刊

厳島大聖院で水火の供養 昼は觀音經流し夜は名物の燈籠流し

岡山県を中心に全国の仏教信者団体をもつて組織されて居る福伝会では皇室と浅からざる関係を有し、かつては厳島神社別当寺として厳島全島を風びするの威力をもつてゐた、弘法大師開基の古刹大聖院が神社分離の明治維新以後とかく不遇の立場におかれ、殊に明治二十年の火災で寺宝諸堂宇が灰塵に帰して以来、二十数年の今日まで只御成門と勅願堂の一部がやうやく復活したのみで、殆ど顧みらざるの状態であるが、之單に大聖院を有する厳島町のみの恥でなく、崇教国として大きな不名誉である、水によつて美をたゞえる神社は龍宮の型をなし、伝説では不可思議な龍燈も弥山へ上ると伝へて居る、弘法大師開基以来の不消の靈火をもつ大聖院は、神社の水に対し、弥山の靈火によつて生命をもつのである、要するに水の神社、靈火の大聖院は、厳島にとつて全く離す事の出来ぬ名誉である、故に弥山大聖院の復活は、世界の樂園として誇る厳島全島の美景を一層充実する意味ともなるといふので、極力これが復活運動に応援する事になり、近く全国福伝会員を厳島に集め、同地始めての試みである水と火の供養、即ち昼は觀音經流し、夜間は燈籠流しの大供養を催して、全国的に大聖院復活の氣勢を挙げると

551・昭和三年七月一九日夕刊

厳島管絃祭 諒開明けとて今年は盛大に 八月二日執行さる

海の守護神杵島姫を祭る厳島神社三大祭の一として、全国各地から十数万の善男善女が押寄せて、海陸とも文字通り身動きならぬ雑踏を極める管絃祭は、いよゝゝ来る八月二日盛大に執行されるが、本年は諒開明け第一年の祭典、殊に芽出度い御大典年の事として神社も出来るだ

け壯嚴に式典を挙げ、なほ恒例の宮島市も祭典数日前から設け、本社主催の奉納角力大会を始め、活動写真、御大典人形館、その他各地の余興も盛沢山であるから、例年以上の人数を見るべく予想されてゐるが、所轄敵島署では広島東西宇品及び呉署から敏腕なる刑事巡查二十余名の応援を得て、事故防止、殊にスリ、不正商人等の検挙につとめ、広島水上署はランチ数隻を以て当日海上の警戒にあたり、なほ廿日市署は、宮島沿線各駅停留場、新宮島棧橋付近の雑踏整理につく等各警察署が連絡を取り、消防手もこれに応援して、大警戒をなす事に決定した

552・昭和三年八月二日夕刊

敵島一帯は既に船で埋まる 参拝人ひし／＼と敵島に渡る

敵島神社管絃祭

敵島神社の管絃祭はいよ／＼二日盛大に執行される事になり、当日神輿を奉ずる管絃船も既に装飾を施し出御の日を待ち、県下隣県は勿論、四国岡山遠く九州路あたりからは／＼和船や発動機船を借切つて押寄せる善男善女で、数日来から祭典気分がいよ／＼全島内にみなぎつて、大元沖から三笠ヶ浜、長浜沖合一帯は例年の通りこれら入港船舶の帆柱が無数の万国旗をつるし賑やかに林立し、陸に劣らぬ賑ひを呈し、陸では先づ本社主催の奉納角力（神社西回廊出口宝物館敷地）を始め、長浜公園の御大典人形館や歴史的に名高い宮島市、その他各種余興等何れも前人氣さかんで、大阪商船を始め内海航路は殆ど一割引の乗客優遇をなし、なほ汽車、電車は臨時増発を行ふ、広島付近町村からも既に一日午後から宿り仕度で続々と押寄せ、広島東西、宇品、廿日市、呉各署応援巡查も殆ど警備管内について半ば人に埋つてゐるかの観を呈してゐるが、二日前の祭典は、午後五時から神輿を奉じた管絃船に神職伶人陪乗して大島居沖からこぎ出て、八時、対岸の外宮地御前神社の御旅所に至り、壯嚴な神事を行ひ、九時、長浜、同九時半、大元、同十時、客社に至り、それ／＼管絃楽を奏しつゝ神事を行

ひ、満潮時を期して廓嘴から還御本社に神輿を納める儀で何れも敵島でなくては他に観られぬ壯嚴な海の祭りであるから、天気さへよくば十万人近い参詣客が雪崩れ込み身動きならぬ雑踏を極めるだらうと予測されてゐる

553・昭和三年八月三日夕刊

古雅な管絃の音 夏の海に響き 敵島付近一帯を詩の絵と化した

敵島管絃祭大賑ひ

我国で宮中と伊勢、敵島両神社の僅三カ所だけ伝つてゐる、日本古来の雅楽を奏しつゝ神輿海上渡御の式典を挙げる、海内稀有の古典的絵巻物の如き官幣中社敵島神社の管絃祭は、今年も旧暦六月の十七日夜を期して美しく飾つた和船三隻を連ねた屋型船に神輿を奉じ、神職伶人これに陪乗して管絃の音を奏し、揃ひの衣装に掛声勇ましき漕ぎ伝馬の御用燈灯を先頭に大島居をくぐり抜けて、御旅所の地御前神社に壯嚴な式典を挙げ、再び古雅な管絃の音を奏しつゝ既報の式順を了して神輿は敵島に還御されたが、此の日敵島は他都市で見られぬ古典的な管絃祭を拝さんと、前夜来汽車、汽船、帆船、電車によつて引つくりなしに押寄せて来る善男善女で海陸とも全く文字通り身動きもこれぬ大雑踏を呈し、本社主催の奉納花角力（神社出口宝物館敷地内）も大竹、四国広島山口方面からの多数飛び入り選手が血湧き肉躍る壮峽な肉弾戦を演じて頗る人気を呼び、五百坪の広い場所もまた／＼間に観衆で大入満員の大盛況を極め、さすがに諒闇明けと芽出度い御大典年だけあつて近年稀に見る人数で、敵島署調査による正午までの来島者数はザツト四万、碇泊船舶五百隻の多数に達し、おかげで神社仏閣に於ける賽銭のあがりは勿論、旅館の如きは、殆ど満員で宿所なき人は、やむなく一日夜は千疊閣神社回廊あたりで夏の月に涼風をとりつゝ遂に夜を明かしたといふ連中も数知れず、その他一般商店の売上高も相当巨額に達し、警察は此の間不正なる商人の取締、迷ひ子の扱ひ、スリの検挙に必至的活動をつゞけたが幸ひ大きな事故もなく、芽出度い祭典に終つたのは何よりうれしい